



双塔

カトリック新潟教会

2018年3月
No. 358

四旬節について

協力司祭 ロレンゾ・ホセ・ルイス

春分の日は日本国の祝日になっていますが、カトリック教会にもこの日は大事な日なのです。この日はイエス様のご復活にかかわっている祝日です。聖書によると、イエス様の受難と復活はユダヤ人たちの過越際に行われたことでした。過越祭は春分の日後の満月の日に記念していました。教会は325年にニケア公会議で、復活祭は春分の日後の満月の後の最初の日曜日と決めました。そういう意味で、毎年、復活祭の日にちは違うわけです。春分の日は3月の20日か21日になっていますが、そのあとの満月は時々近い日になり、また時々まだ遠い日になっているからです。今年、2018年に、その満月は3月31日になっています。次の日、4月1日は日曜日ですのでこれは今年の復活祭になります。

実は、復活祭の日にちがわからないと、灰の水曜日も決められないのです。なぜなら、四旬節の40日間は復活祭から逆算して数えていくのです。しかし、日曜日はいつもイエス様のご復活も記念している主日ですので、四旬節の40日間には数えていません。今年の復活祭の4月1日からさかのぼって40日間数えると2月14日になります。灰の水曜日です。

四旬節には断食のことを強調されているのですが、これは食べ物のことだけではないのです。私が子供のころ、四旬節になると私の家族みんなは映画を観ないことにしていました。いくら面白くても、灰の水曜日から聖土曜日までは我慢して映画館に行かなかったです。好きなことをしない、これも断食の一つの姿です。ただ、それだけでは足りないと思います。好きなことを控えてその代わりに、神様との時間を増やせば一番いいです。「回心して福音を信じなさい」とイエス様は言われました。悔い改める心を持つことと福音を信じていることができるのも神様による恵みですので、このお恵みをいただくために祈りの時間をますます大事にしなければならないのです。この四旬節にあたり、神様の力を願いながら、頑張ってまいりましょう。

